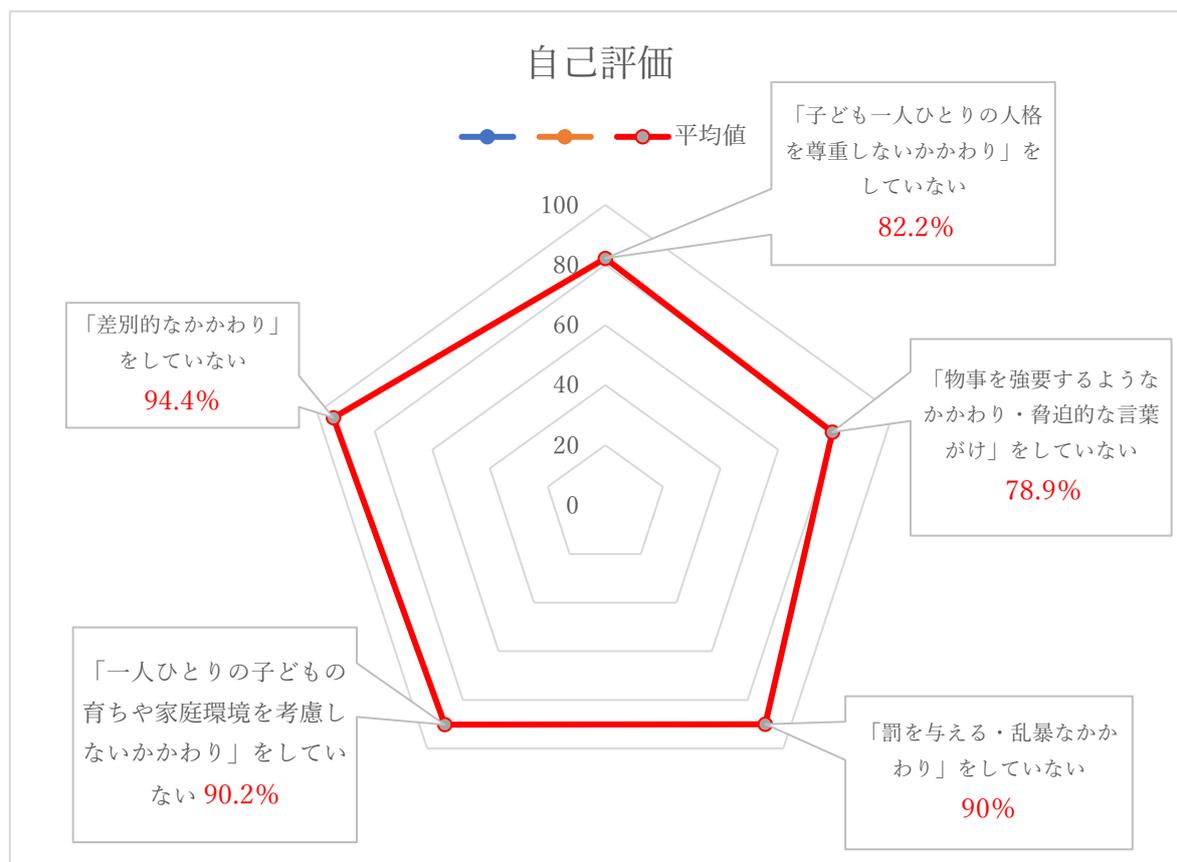


2023年度 自己評価



「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」について

- ・その時の状況や自分に余裕がなかった時は「待ててね」「あとでね」と子どもの言葉に耳を傾けられないこともあったが、保育者の都合や一日の流れにとらわれず、子どもの思いを第一にかかわっていくことが必要だと気づくことができた。
- ・子どもの気持ちに寄り添って、気持ちを受け止めたり、子どもの立場になってどんな声掛けをしたら嬉しいかを考えたりしながら保育することができている。
- ・子どもの思いを可能な限り受け入れたり、子どものイメージを大切にかかわっていくことはずっと大切にしたい。

「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ」について

- ・「〇〇して～しようね」や「お友達がまっているよ」等言うことがあるが、子どもにとっては強要されているように感じることもあると思うので伝え方に気をつける。
- ・したくない事を無理強いせず、子どもとの会話や様子を見ながら、一緒に選択できるような関りを心掛けている。
- ・子どもたち自身で考えて行動できるような言葉かけやかかわりをこれからも学び、実践していこうと思う。

「罰を与える・乱暴なかかわり」について

- ・自分もちろん、他の職員でも見かけないかかわりである。
- ・「おやつをあげない」など、罰を与えるようなかかわりは決してあってはならない事である。
- ・罰を与えるのではなく、見通しが持てるように言葉をかけたり、意欲的に生活ができるように肯定的な言葉かけをしている。

「一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり」について

- ・互いの違いを認め、尊重することを心掛けている。
- ・一人ひとりの育ち、環境を頭に置いて不安な気持ちにならないようなかかわりを心掛けている。
- ・一人ひとりの保護者の状況を踏まえて、否定的な言葉をかけるのではなく、寄り添ったかかわりを意識する。

「差別的なかかわり」について

- ・子どもの成長や個性・性格に合わせたかかわりをする中で、子どもの心を傷つけたり、差別されていると感じるようなかかわりをしないように心掛けている。
- ・「男の子」「女の子」で決めたり、「この子は〇〇だから」と決めつけたりすることもないように気をつけている。
- ・子どもたちの自分も相手も大切にしようとする心を育てていく。